関東地方整備局 1/1

路側線

平成15年度道路環境センサスデータ一覧表

下表は、平成15年度道路環境センサスとして直 |轄国道で行った調査結果を調査地点別に表示したも のである。

騒音の新環境基準との比較は、全ての調査地点を 対象に行っているが、調査地点において環境基準の |類型指定がなされていない場合は、超過・非超過の |状況を()付きで表示した。

表示順位は、都府県支庁指定市別、路線番号別、 調査単位区間番号の順で並べた。

「 - 」は入力データが無いことを示す。

環境基準、要請限度超過・非超過状況 : 非超過 × : 超過 () : 環境基準類型指定または 騒音規制区域指定の対象外 瀬戸規制と場合とは 環境基準:昼間70dB 夜間65dB 要請限度:昼間75dB 夜間70dB

車線数は、併設道路を含む。(12欄) 環境基準類型、騒音規制区域の指定状況は、

: 指定有り 空白: 指定無し とした。(13~14欄)

環境基準の類型指定延長は、上下車線別に求め、その合計を2で除した。(17欄) 環境対策設置延長は、上下車線別に設置された延長の合計となっている。(23~27欄) 遮音壁高さ(28欄)は測定地点における値のため、設置延長の有無にかかわらず「-」と表記される区間もある。

舗装種別は以下に示すとおり(22 欄) 密粒As : 密粒アスファルト 排水性As: 排水性アスファルト その他As: その他のアスファルト

コン/リート : コンクリート その他 : その他

沿道建物の状況は以下のとおり(31~32欄)

| 両側 : 両側に建物がある | 測定側: 測定側のみ建物がある 反対側: 測定点の反対側のみ建物がある 無 : 両側とも建物がない 不明 : 不明

対策予定記 載 —⇒<u>4 50m</u> 方法

調査種別番号(33欄)は以下のとおり

1:平成15年度実測 5:前年度データを補完

低騒音舗装 40m 延長の考え方 中央線

環境施設対設置延長(35~44欄)は以下のとおり記載する。

・通常の場合は入力不要。新型遮音壁の場合は、できるだけ詳しく種別を入力。 「新型遮音壁」は不可。(例)ASE遮音壁

高さ : 四緒五人により整数とする。 高架裏面吸音板:小数点以下2桁を四捨五人 低騒音舗装:延長の考え方は右図参照。少数2桁を四捨五人

環境施設帯:小数点以下 2 桁を四捨五人 遮音壁 : 小数点以下 2 桁を四捨五人

その他 : 小数点以下2桁を四捨五入

延べ延長 50+ 40+ 30 = 40m 車線数 3

事務所コード	路線名	地点名	No.		Ā	環境基準 超過・非超過		要請限度 2 超過・非超過		騒音レベル (dB) 車		+6-2	させ点 の 2状況	則定位置 情報	区間	環境	評価	沿头	道路条件		玛	環境対策設置延長 <mark>現況 H15調査時</mark> [片			延長(km) [片側換算]			平価対象 現況	地域内環 H15調		対策設置延長(km) [片側換算]		併設道	路	沿道建物		測定データ		
			都道府 県支庁 指定市 コード	調査 単位 区間 番号	区間 内番号	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間 Leq	夜間 ^数 Leq	環境 環境 基準 類型	規制	則定点側 の車道 中央との 距離 (m)	長 :	類型指 定延長 (km)	延長 (km)	型 状 況	道路 敷幅 (m)	道路 形態	舗装 種別	環境 施設 帯	盛	吸音	低 経音 浦装	新型が進音を登	低層 道 遊音 壁	壁高さ 環(m) 旅	境。過音	高架高架。	低騒音舗装	新型 遮音 壁	低層 遮音 壁	併設 道路 の 有無		定点 背後 射物 有無	音道 i 制物の 利 状況 i	調査 実活種別 調査番号 年月	
03	一般国道18号	群馬県碓氷郡松井田町大字五科741	10000	1021	1	×	×	×	×	76	78	2		3.7	24.4	24.40	24.40	山地部	11.2	平面	密粒As	0	0	0	0	0	0	-	0 0	0	0	0	0	無	-	無	無	5 200	J1